

図画工作科学学習指導案

指導者 山元小学校 野村 尚也 (T1)

高田 麻里 (T2)

1. 日時・場所 令和元年 7月22日(月) 第3,4校時

場所 4組教室

2. 学年・組 3・4組 8名

3. 学習の方向性から題材へ

「学習の方向性」
 「材料を基に造形的な活動を思い付き、思いのままにつくる。」
 「活動したことや表現したものの面白さや楽しさなどを感じ取ったり、考えたりし、見方や感じ方を広げる」

子どもたちの姿

- 図工の授業が好きで、絵や立体、工作、造形遊びの活動に楽しむ姿がよく見られる。
- 「いろいろ いろがみ」の造形遊びの活動では、四角や三角の色紙を思い思いに並べて自分のイメージを表現していた。その際、色に注目するより形に注目する子が多かった。
- 造形遊びの経験が少ないため、材料から造形的な活動のイメージをもつのが苦手な子が多い。
- 活動が始まるとつくることに集中してしまうあまり、周りが見られなくなることがある。

教師の願い

- 図工が好きな子が多いこともあり、どの子も熱心に取り組んでいるが、自分にとっての意味のある活動にしてほしい。
- 造形遊びの活動では、材料の形や色から感じ取った素直な思いやイメージを大切にしながら活動してほしい。
- 材料の色に対して、自分にとっての意味を見い出しながら、活動を工夫してほしい。
- 友達の活動を参考にしながら新たな造形的な活動を思い付いたり、つくりかえたりして、つくり続ける楽しさを味わってほしい。

題材名
 『からふるからーこっぷ だいさくせん!!』
 ～ならべて、つんで、つなげて めざせ☆☆☆～
 A表現(1) 造形遊びをする活動 B鑑賞

題材目標

- カラーコップを並べたり、つんだり、つなげたりしながら、進んで活動を楽しむようにする。
- カラーコップの形や色の特徴を基に、思いのままに様々な方法を試すことで、自分にとっての並べ方や積み方を考え、活動を工夫するようにする。
- つくり出す喜びを味わうとともに、できあがったものの形や色から、そのよさや面白さを感じとるようにする。

題材について
 本題材は、カラーコップの形や色を生かして、並べたり、積んだり、つなげたりしながら、手や体全体の感覚を働かせ、思いのままに表現する楽しさを味わうことができる題材

である。カラーコップの大きさが少し大きいため、材料一つ一つに時間をかけて触れることができる。そのため、材料に触りながら活動を考えたり、自分のイメージを広げたりすることにつながっていく。また、子ども達にとって身近な材であるため、形や色を基に自分のイメージを広げ、並べたり、積んだりする活動を展開しやすいと考える。一人一人が材と触れ合う時間を大切しながら、つくり出す喜びを味わえるようにしたい。

そのために、子ども達が十分に活動できるカラーコップの数や色を確保し、出会いの工夫や場の設定の工夫をすることで、つくり続けることの楽しさを実感できるようにする。一人での活動が難しい子もいるため、教師間で連携しながら、子どもの言葉を引き出して、活動に反映できる支援を行っていききたい。

本校の支援級の実態として、活動の見通しが持てないと、固まってしまうなかなか活動に参加できない。そのため、副題に～ならべて、つんで、つなげて、めざせ☆☆☆！（☆3つ）～と入れた。☆1は、一人で並べたり、積んだりしてみる。☆2は、つくったものをつなげること。☆3は、自分にとってのお気に入りを見つけること。クラス全体で☆3つを獲得するのを目指すことで、活動の見通しも持たせ「やってみよう」という意欲につなげたい。そして、その活動自体が友達同士で協力したり、認め合ったりするような雰囲気にしていきたい。

○「学習の方向性」にかかわる育む資質・能力と本題材との関連

大量のカラーコップを目の当たりにし、材と一体になって手や体全体を働かせながら、並べたり、積んだり、つなげたりすることで、材料の色や形の特徴に気づき、新たな発見を基に活動の工夫につながる。

○本題材における〔共通事項〕についてのとらえ
〔共通事項〕

ア. 自分の感覚や活動を通して、組み合わせの感じ方をとらえること。

イ. 自分のイメージをもつこと。

十分に材と触れ合うことを通して、カラーコップの特徴を捉え、色や形を生かしながら自分にとっての意味のある活動にすること。

4. テーマにせまるための手立て

部会テーマ（低学年部）

思いのままにすることを楽しむ子どもの姿を目指して

○出会いの工夫

初めてのことに上手く対応できない子がいるため、パワーポイントを使ってカラーコップを擬人化し、テレビ画面に映し出すことで、カラーコップに興味・関心をもたせるようにする。活動への興味・関心を高めてから、隠しておいた大量のカラーコップと出会うことで、「触ってみたい」、「並べてみたい」、「積んでみたい」というような造形活動の意欲につなげていく。

○場の工夫

造形遊びの活動では、活動する場所が狭いと積み上げ、広いと並べることが考えられるため、子ども達が自分で活動場所を選択し、「並べる」、「積む」といった活動がどちらもできる『教室』でのびのびと活動させる。机でも床でも造形活動ができるように、壁側に机を置き、教室の真ん中には何も置かず、床で広く活動できるようにする。

○共感的支援の工夫

活動の見通しがもてるように、☆3つの獲得を目指すことを副題として設定した。☆1は、一人で並べたり、積んだりしてみる。☆2は、つくったものをみんなでつなげるこ

と。☆3は、自分にとってのお気に入りを見つけること。とすることで、カラーコップに触れる時間を十分に確保し、自分の思いのままにすることを楽しめるようにする。

カラーコップを並べたり、積んだり、つなげたりしていく中で「できた」ことを大切に、「できた」ものをお気に入りとして iPad で撮影していく。また、最初は材と触れ合うために一人で活動するが、みんなでつなげる活動を行うことで、友達の良さにも気付かせたい。そして、最後はお互いの表現を見合うことで、互いのよさに気付けるようにする。

○小中一貫の視点

本校の支援級は、1年1名、2年1名、3年3名、4年3名の計8名である。学年も個の実態も違う中、全体で造形遊びを行う。今回の造形活動は、低学年の自分の思いのままに活動することを大事にしていくが、全員が同じ目標なわけではない。特に自閉症・情緒学級の中学年の子達には、場所の工夫を意識した活動になるように声をかけていく。そして、可能であれば高学年の効果的な工夫にも触れたい。異学年の造形遊びだからこそ、個の実態に合わせて声かけを変え、子どもが主体的につくり続けられるようにする。

5. 題材の評価規準

◎知的学級

	造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
A	カラーコップを並べたり、積んだりする活動に取り組もうとしている。	カラーコップの形や色を基に、造形的な活動を思い付いている。	カラーコップを並べたり、積んだりする方法を試しながら、自分らしい表現方法で活動している。	できあがったもののよさを、友達や先生に伝えられる。
B	カラーコップを並べたり、積んだりする活動に取り組もうとしている。	カラーコップの形や色を基に、造形的な活動を思い付いている。	カラーコップを並べたり、積んだりする方法を試しながら、自分らしい表現方法で活動している。	できあがったものの形や色から、そのよさや面白さを感じとろうとしている。
C	カラーコップを並べたり、積んだり、つなげたりする活動に進んで取り組もうとしている。	カラーコップの形や色を基に、造形的な活動を思い付いたり、どのように活動するかを考えたりしている。	カラーコップを並べたり、積んだり、つなげたりしながら、自分らしい表現方法で活動している。	思いを伝え合うことで、できあがったものの形や色から、そのよさや面白さを感じとろうとしている。
D	カラーコップを並べたり、積んだり、つなげたりする活動に進んで取り組もうとしている。	カラーコップの形や色を基に、活動を思い付いたり、どのように活動するかを考えたりしている。	カラーコップを並べたり、積んだり、つなげたりしながら、自分らしい表現方法で活動している。	思いを伝え合うことで、できあがったものの形や色から、そのよさや面白さを感じとろうとしている。
E	カラーコップに興味をもち、活動に参加しようとしている。	カラーコップの形や色を基に、自分のイメージを広げている。	カラーコップの形を生かして、自分らしい表現方法で活動している。	できあがったもののよさを、友達や先生に伝えられる。

◎自閉症・情緒学級

	造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
F	カラーコップを並べたり、積んだり、つなげたりする活動に進んで取り組もうとしている。	カラーコップの形や色を基に、活動を思い付いたり、どのように活動するかを考えたりしている。	カラーコップを並べたり、積んだり、つなげたりしながら、自分らしい表現方法で活動している。	思いを伝え合うことで、できあがったものの形や色から、そのよさや面白さを感じとろうとしている。

G	カラーコップを並べたり、積んだり、つなげたりする活動に進んで取り組もうとしている。	カラーコップの形や色を基に、造形的な活動を思い付いたり、どのように活動するかを考えたりしている。	カラーコップを並べたり、積んだり、つなげたりと様々な方法を試しながら、自分らしい表現方法で活動を工夫している。	思いを伝え合うことで、できあがったものの形や色から、そのよさや面白さを感じとろうとしている。
H	カラーコップを並べたり、積んだり、つなげたりする活動に進んで取り組もうとしている。	カラーコップの形や色を基に、造形的な活動を思い付いたり、どのように活動するかを考えたりしている。	カラーコップを並べたり、積んだり、つなげたりと様々な方法を試しながら、自分らしい表現方法で活動を工夫している。	思いを伝え合うことで、できあがったものの形や色から、そのよさや面白さを感じとろうとしている。

6. 指導と評価計画 【全2時間】(本時1・2/2)

- ア…カラーコップとの出会い。カラーコップを使ってどのような活動ができるか考えたり、試したりしながらやりたいことを思いつく。
- イ…カラーコップの形や色を基に、並べたり、積んだり、つなげたりする活動を通して、自分なりに工夫して活動を広げる。
- ウ…自分のお気に入りをもみんなに紹介し、友達との表し方の違いや個々の表現のよさなど感じたことを伝え合う。

時	子どもの学習活動	評価規準	○教師の指導
1時	○カラーコップと出会う。 ・カラーコップが動いている。 ・☆3つをめざしたいな。		○パワーポイントを使うことで、子ども達の意欲を高めつつ、材の扱い方やルールについて確認する。
	ア たくさんのカラーコップを使って、どんなことができそうかな。		
	○4色のカラーコップと出会う。 ・いろいろな色がある。 ・並べたらどこまで広がるかな。 ・つんだらおもしろそう。	関	○☆1の獲得を目指して、並べたり、積んだりすることができることを確認する。 ○色々な色を用意することで活動の幅が広がるようにする。(4色) ○材料は、最初はパーテーションで隠し、見せないようにする。子ども達の意欲を高めてから見せる。
	イ カラーコップをもっとならべて、つんで、つなげてみよう。		
	○カラーコップを並べたり、積んだりして思い思いに活動を楽しむ。 ・長くつなげると面白い。 ・もっと高く積み上げたいな。 ・色を順番に並べると面白いよ。 ○できたものを友達とつなげる。 ・タワーとお家がつながった。 ・みんなでつなげると楽しい。 ・教室が町みたいになったよ。	発 技	○子ども達と話しながら、どんなことを表現したいか思いを引き出し、表現できるようにする。 ○子どもの見出した意味や価値に共感しながら、全体に広める。 ○☆2獲得を目指し、つなげてみるとどうなるか子ども達に声をかける。 ○他の子がどんな活動しているかわかるように、iPadを活用して「できた」ものを写真に撮るようにする。

ウ 自分の思いを伝えて、楽しい思いを共有しよう		
2時	<p>○できたものの中からお気に入りのを決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この位置が一番カッコいい ・自分のお気に入りのものができた。 ・他の子はどんなもの作っているのかな。 <p>○表現したものを鑑賞し合い、感じたことを友達と伝え合う。</p> <p>○どのような活動をしたか感想をみんなに伝える。</p> <p>○片付ける</p>	<p style="text-align: center;">鑑</p> <p>○活動が進んできた子には☆3の獲得を目指して、お気に入りのを決めさせる。</p> <p>○表現したことを全て認め、価値づける声かけをする。</p> <p>○どのようなものを表現したのか伝えるために、鑑賞する時間を設ける。</p> <p>○感想を交えて、活動を振り返られるようにする。</p> <p>○協力して片付けるように声をかける。</p>

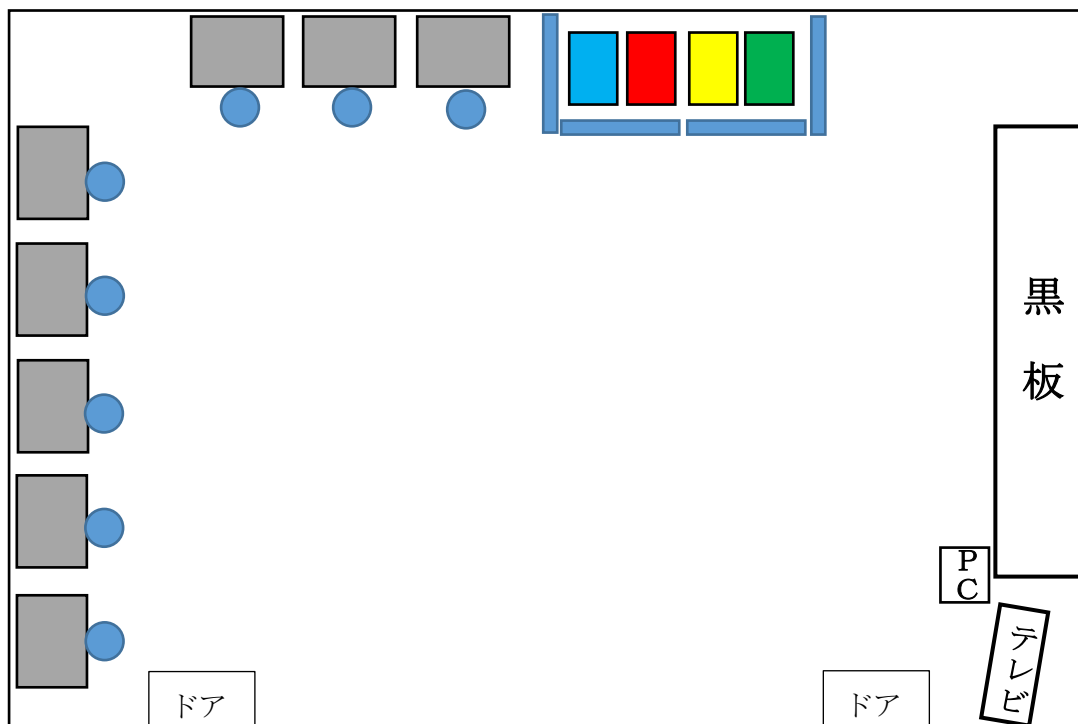
7. 準備

子ども：運搬用のかご

教師：カラーコップ4色（青・赤・黄色・緑）、パーテーション、机、いす、iPad（1台）、PC（1台）、テレビ

8. 場の設定

教室の真ん中は広く開け、床で活動しやすいようにした。高く積みたい子のために、机といすは壁側に置いた。



9. 本時の計画 (1・2/2) ①～⑤は知的学級、⑥～⑧は自閉症・情緒学級

児童	①A	②B	③C	④D	⑤E	⑥F	⑦G	⑧H
実態	好きなことには集中して取り組める。絵を描いたり、色を塗ったりすることが好きである。	色を基にして自分の思いをイメージすることが苦手である。形から入ると活動に集中して取り組める。	絵を描いたりすることにはあまり得意ではないが、図工の活動は進んで取り組んでいる。色を塗るのは好きである。	活動に見通しがもてないとして作業が進まない。絵を描いたり、はさみで切ったりする活動は好きである。	指示したことを理解するのに時間がかかる。色の識別はできている。自分のイメージを大事にする。	不器用で細かい作業は苦手である。色を塗ったり、絵を描いたりすることは丁寧にしている。	左手のみで作業を進めるため、時間はかかる。一方で自分のイメージを表現することが得意である。	話を聞かずに進めてしまうことがよくある。自分のイメージをもっており、表現するのが得意である。
個別目標	思いのままにカラーコップを並べたり、積んだりすることができる。	カラーコップの色を基に、並べたり、積んだりすることができる。	カラーコップの形や色を基に、造形的な活動を思い付くことができる。	カラーコップの色や形を基に、並べたり、積んだりすることができる。	思いのままにカラーコップを並べることができる。	カラーコップの色や形を基に、並べたり、積んだりすることができる。	カラーコップの形や色を基に、造形的な活動を思い付くことができる。	カラーコップの形や色を基に、造形的な活動を思い付くことができる。
学習活動	・活動内容 ○支援 ★評価							
1 カラーコップと出会う。	・PTを見る。 ○PTで学習の流れを確認する。	・PTを見る。 ○PTで学習の流れを確認する。	・PTを見る。 ○PTで学習の流れを確認する。	・PTを見る。 ○PTで学習の流れを確認する。	・PTを見る。 ○PTで学習の流れを確認する。	・PTを見る。 ○PTで学習の流れを確認する。	・PTを見る。 ○PTで学習の流れを確認する。	・PTを見る。 ○PTで学習の流れを確認する。
たくさんのカラーコップをつかって、どんなことができるかな。								
2 カラーコップを並べたり、積んだりして思い思いに活動を楽しむ。	・思い思いに並べる。(★) ○作っている形について声をかける。	・思い思いに並べる。 ○色について声をかけるようにする。	・色や形を基に、並べたり、積んだりする。 ○何をイメージしているか聞く。	・色や形を基に、並べたり、積んだりする。 ○何をイメージしているか聞く。	・思い思いに並べる。(★) ○作っている形について声をかける。	・色や形を基に、並べたり、積んだりする。 ○何をイメージしているか聞く。	・色や形を基に、並べたり、積んだりする。 ○何をイメージしているか聞く。	・色や形を基に、並べたり、積んだりする。 ○何をイメージしているか聞く。
○ ☆1の獲得を目指すように支援する。(一人で並べたり、積んだりしてみること。)								
3 友達とつなげ合う。	カラーコップをもっと ならべて、つんで、つなげてみよう。							
	・自分の思いを表現する。	・友達とつなげた。	・友達とつなげた。(★)	・友達とつなげた。	・自分の思いを表現する。	・友達とつなげた。	・友達とつなげた。(★)	・友達とつなげた。(★)
○ ☆2の獲得を目指すように支援する。(つくったものをみんなでつなげること。)								
4 できたものの中からお気に入りを決める。	じぶんのおもいを つたえよう。							
○ ☆3の獲得を目指すように支援する。(自分にとってのお気に入りを見つけること)								
5 表現したものを鑑賞し合い、感じたことを友達と伝え合う。	・楽しかったことを伝える。 ・片付け	・並べ方や積み方の感想を伝える(★) ・片付け	・友達の表現を見て感じたことを伝える。 ・片付け	・並べ方や積み方の感想を伝える(★) ・片付け	・楽しかったことを伝える。 ・片付け	・並べ方や積み方の感想を伝える(★) ・片付け	・友達の表現を見て感じたことを伝える。 ・片付け	・友達の表現を見て感じたことを伝える。 ・片付け

10. 研究内容のふりかえり

1. 「学習の方向性」と〔共通事項〕を基にしたカリキュラム・マネジメント

本学級では、2年生から絵の具バッグを個人で持たせ、5月から9月までは、絵を描く活動を毎月取り入れ、A表現（2）の絵や立体で表現する活動に力を入れている。本学級の児童全体的に色へのイメージ持っていないことがあるため、造形遊びを通して色へのイメージを持てるようにすることに力を入れている。

出会いの場面で、パワーポイントを使うことで、カラーコップの形や色に注目させることができた。その際、技能としての並べることや積むことに意識を向けることができたので、説明しなくても、子ども達は活動の流れが分かっていた。ただ、2年生のK.Kさんは、カラーコップを色ではなく、形だけでとらえていたため、色彩への理解が不十分であった。この単元だけでなく、生活科や他の図工の単元などを通して、1年間かけて色への興味関心をもたせていきたい。

2. 子どもが主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくり

造形遊びでの活動において、一人で試行錯誤する時間が大切であると感じている。3年のA.Rさんは、誰かが自分に対してちょっかいを出した場合、ちょっとしたことでも怒ってしまう。今回の活動中、何度も自分がつくっていたものが崩れてしまうことがあった。なぜ崩れるのかを考え、次は崩れないようにと工夫して活動を続けていた。また、友達とつなげる際には、お互いにアドバイスを出し合いながら、自分で主体的に考え、友達との対話を通して、さらに考えを深めていくことしていた。

一人で作る→つなげる→見合う

この流れで授業を行ったことが、材に十分に触れる時間をつくり、一人でまたは複数での材との対話を通して、造形的な見方・考え方を働かせて活動をより楽しいものにできたと考える。

まだまだ、分からないことばかりではあるが、子どもが材と向き合う方法についてこれからも考えていきたい。